

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：1-3月期ユーロ圏GDP改定値

発表日：2011年6月9日(木)

～1-3月期の高成長は出来すぎ、4-6月期入り後は減速の兆し～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

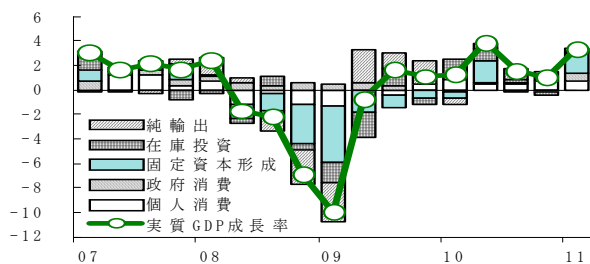
- 1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率の改定値は前期比+0.8%、同年率+3.4%と7四半期連続のプラス成長を記録。速報段階の前期比+0.8%、同年率+3.3%から僅かに上方修正された。
- 国別には(右図)、フィンランドが上方修正(前期比+0.3%→同+0.8%)、新たに公表されたスロベニアが前期比+0.3%となった以外は、各国とも速報段階と同じ伸び率。中核国が好調な一方、財政不安国は総じて不振という構図が続いている。緊縮措置の影響からポルトガルが2四半期連続のマイナス成長。スペインとギリシャのプラス成長は輸出回復を反映したもので内需の足取りは鈍い。
- 需要項目別の内訳は(左図)、個人消費が6四半期連続増も引き続き緩慢な伸び(前期比+0.3%)。政府消費はドイツとスペインでの公務員給与の増加を主因に増加に転じたが(同+0.8%)、財政緊縮を考えればこれは一時的な上振れ。固定資本投資の力強い伸び(同+2.1%)は、昨年冬の寒波で建設投資が後ズレしたことや、輸出好調を受けた自動車関連の設備増強の動きを反映したもので、輸出拡大が続いているものの、内需回復を映じて輸入も拡大した結果、外需の寄与度はフラット圏。
- 1-3月期の成長率が出来すぎだったこともあり、各種景気指標は4-6月期入り後の減速を示唆。4月のドイツの鉱工業生産は建設活動の落ち込みを主因に前月比▲0.6%と4ヶ月振りの減産。同月の輸出金額は世界景気の拡大ペースの鈍化を反映し、同▲5.5%と過去2ヶ月のハイペースな拡大が一服。

■ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目 GDP	実質 GDP	内需					外需		
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
09/7-9月期	2.2	1.7	(0.4)	▲0.6	1.5	▲5.0	(1.5)	(1.3)	10.8	7.5
09/10-12月期	1.5	1.1	(▲0.8)	0.8	▲0.2	▲3.3	(▲0.5)	(1.9)	9.7	5.0
10/1-3月期	2.4	1.3	(1.8)	1.5	▲0.8	▲2.5	(1.6)	(▲0.5)	14.8	16.7
10/4-6月期	5.4	3.9	(3.4)	0.9	0.7	9.2	(1.0)	(0.5)	17.8	17.2
10/7-9月期	3.3	1.6	(0.7)	0.7	0.7	▲0.7	(0.3)	(0.9)	6.9	5.1
10/10-12月期	1.0	1.0	(0.3)	1.3	▲0.3	▲0.2	(▲0.4)	(0.7)	6.8	5.4
11/1-3月期	5.3	3.4	(3.3)	1.3	3.2	8.9	(0.2)	(0.1)	7.6	7.6

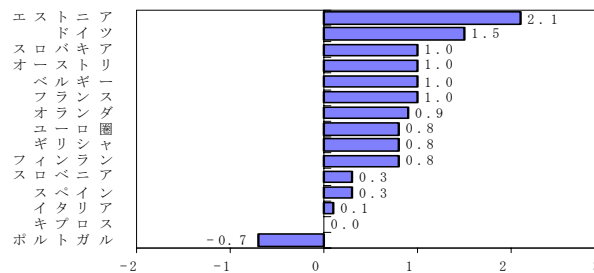
出所：Eurostat

■ユーロ圏：実質GDP成長率(前期比年率、%)



出所：Eurostat

■2010年1-3月期の実質GDP成長率(前期比、%)



出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。